

京都
郷土誌
全

特31
259

025318-000-4

特31-259

京都郷土誌

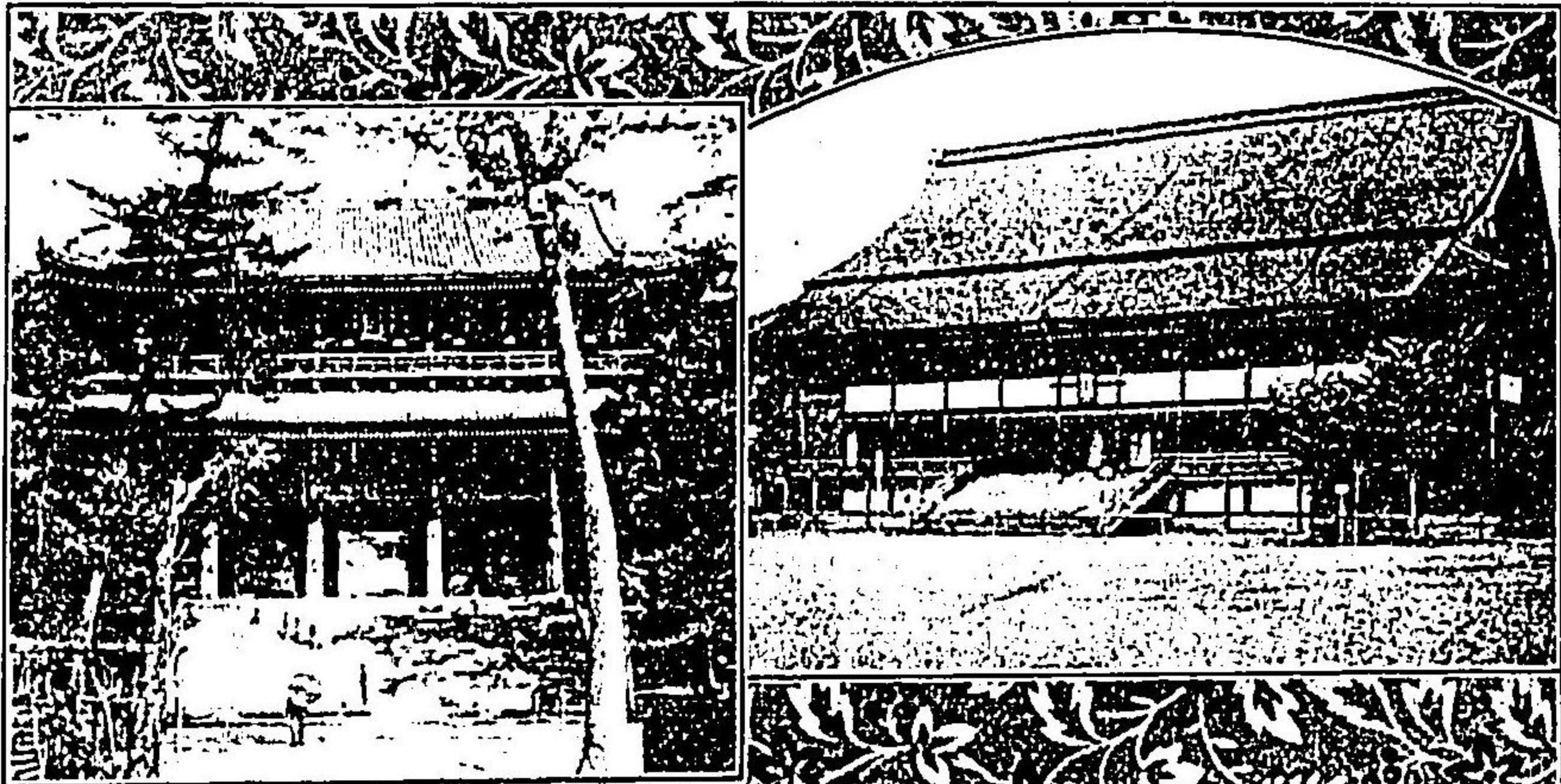
京都市尋常高等小学校長会／編

M35

ADC-2752

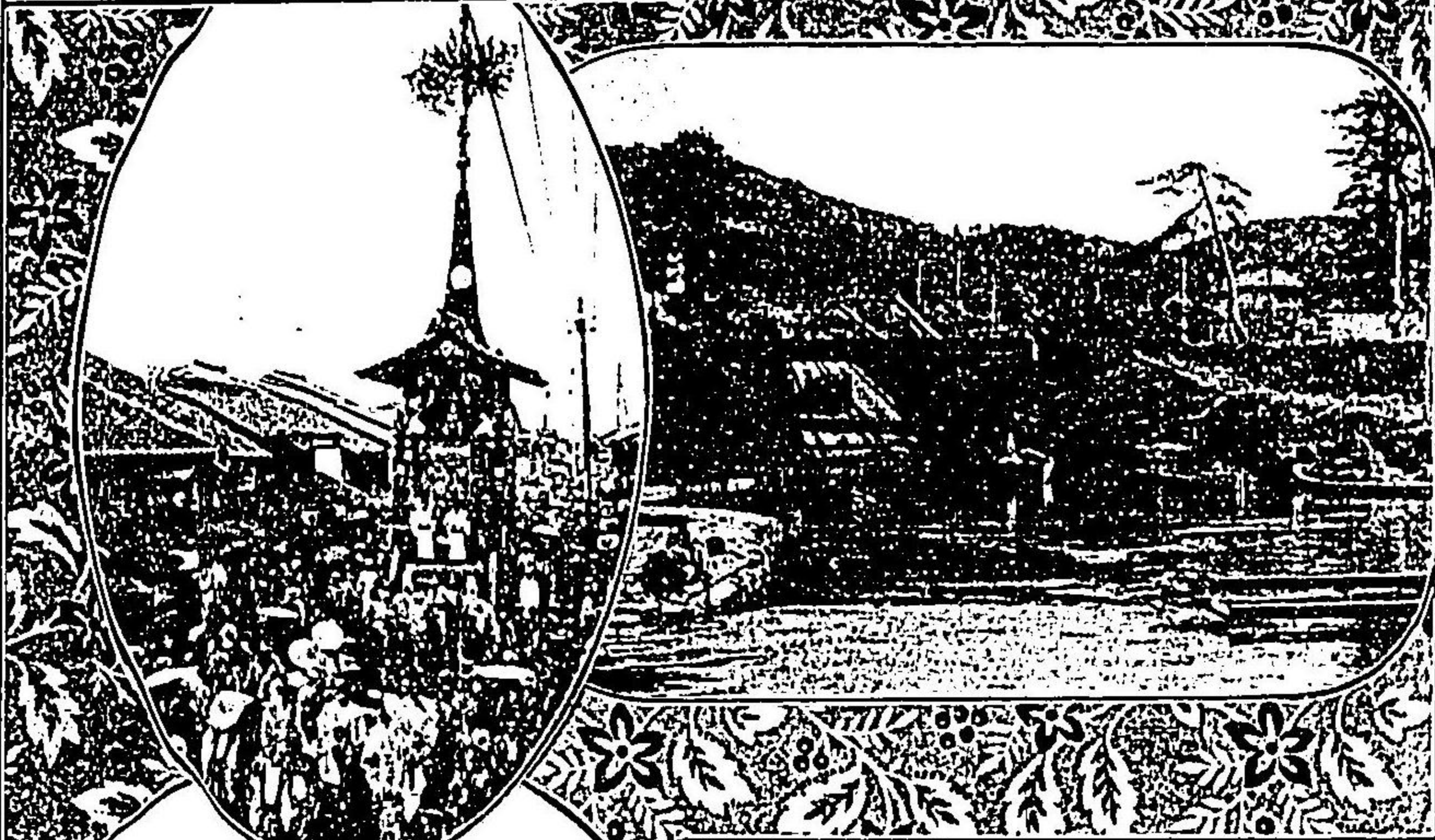


智恩院山門



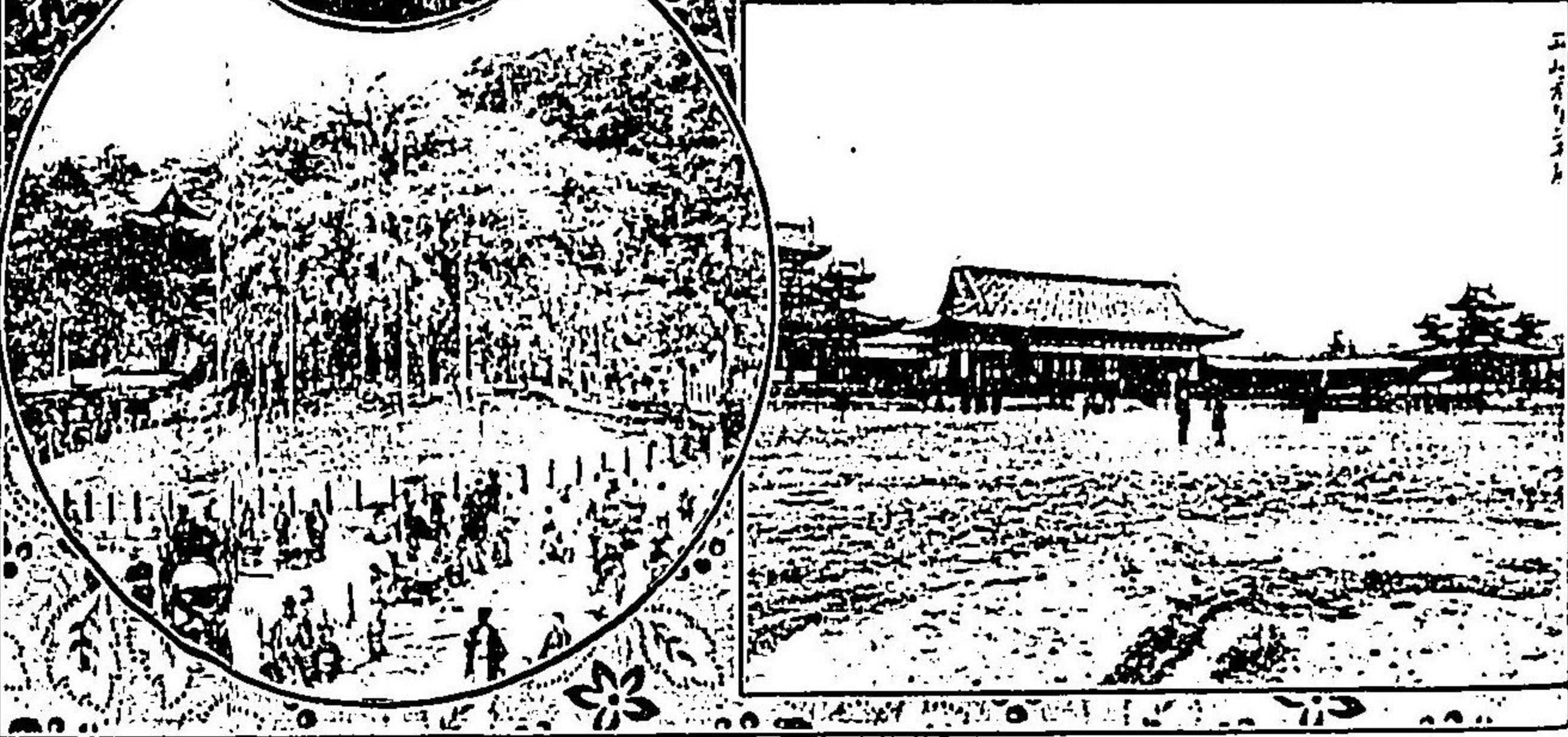
紫宸殿

祇園會



蘇水インクライン

四山公園

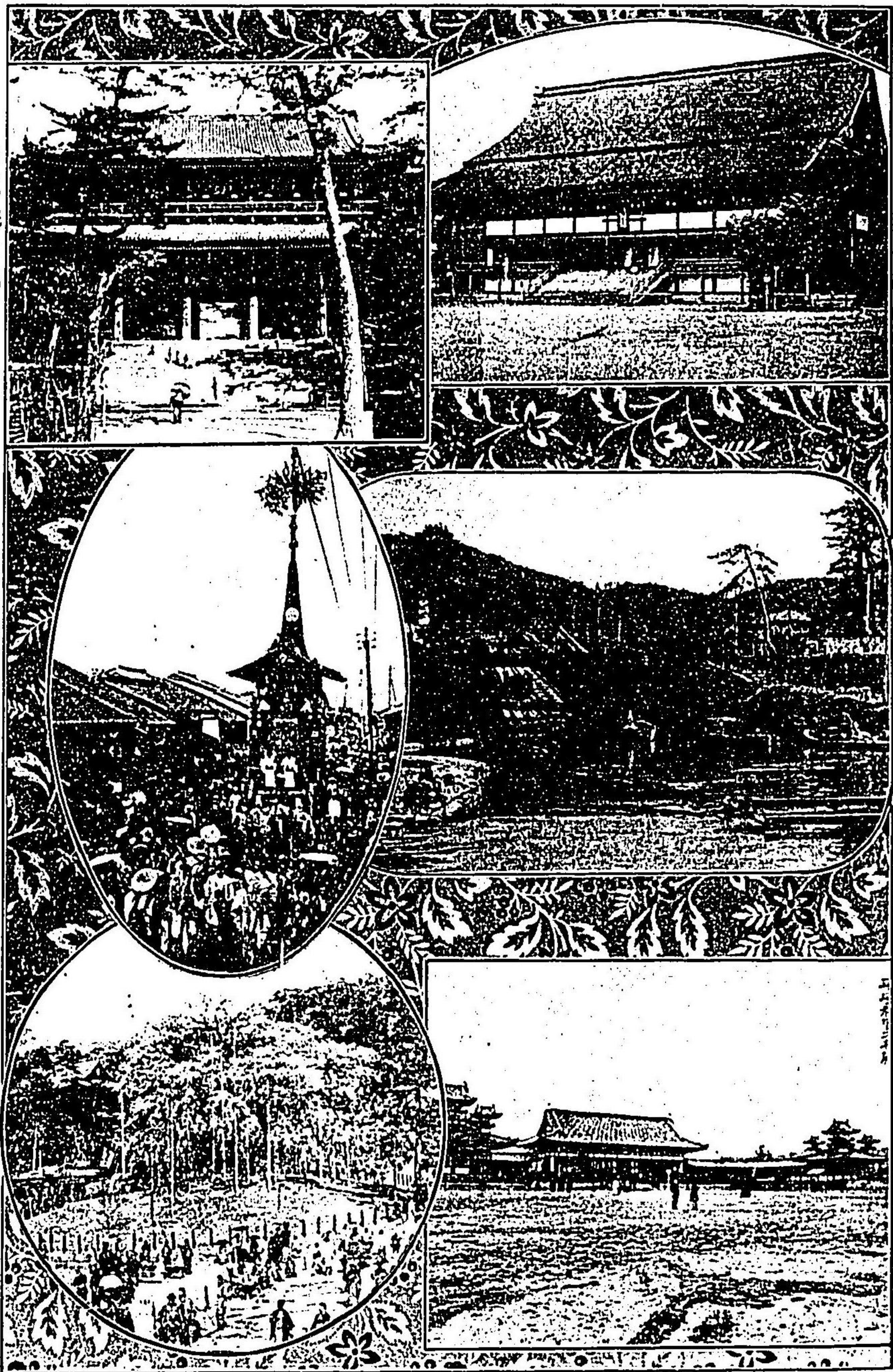


紀念殿

京都市尋常高等小學校長會編纂

京都郷土誌

京都 三書房發行



智恩院山門

紫宸殿

祇園會

疎水インクライン

圓山公園

紀念殿

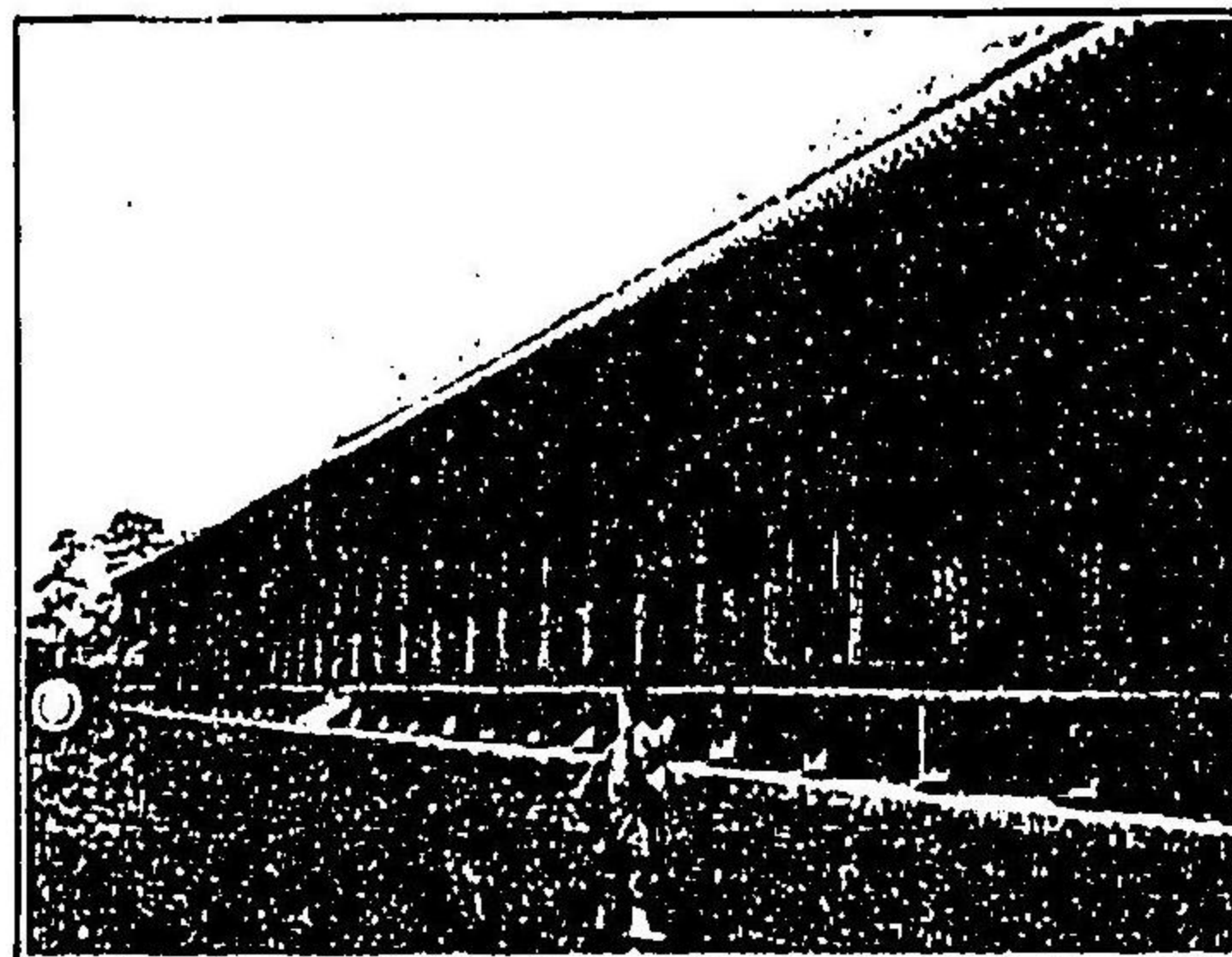
京都

京都郷土誌

三書房發行

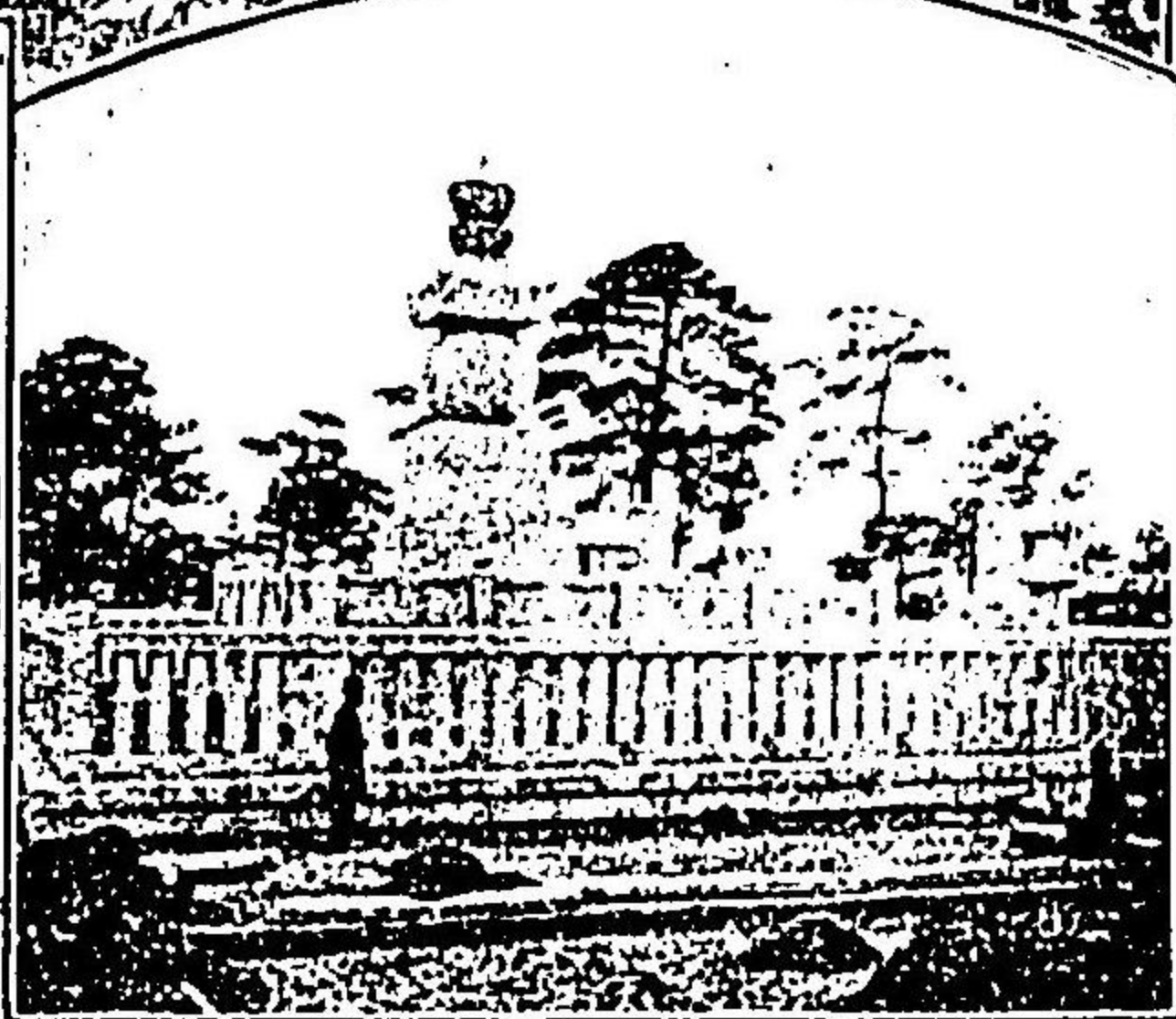
京都市尋常高等小學校長會編纂

三十三間堂



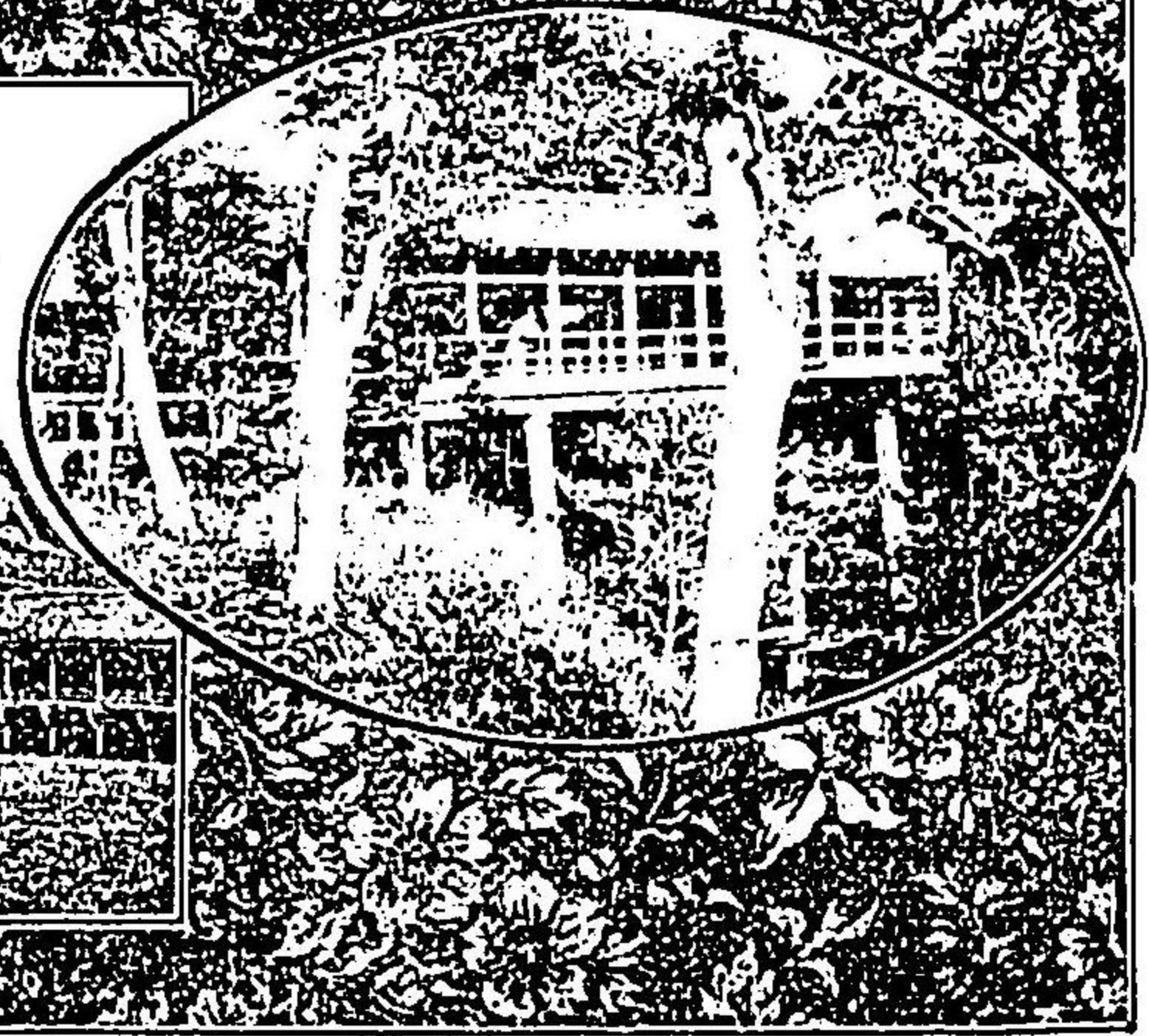
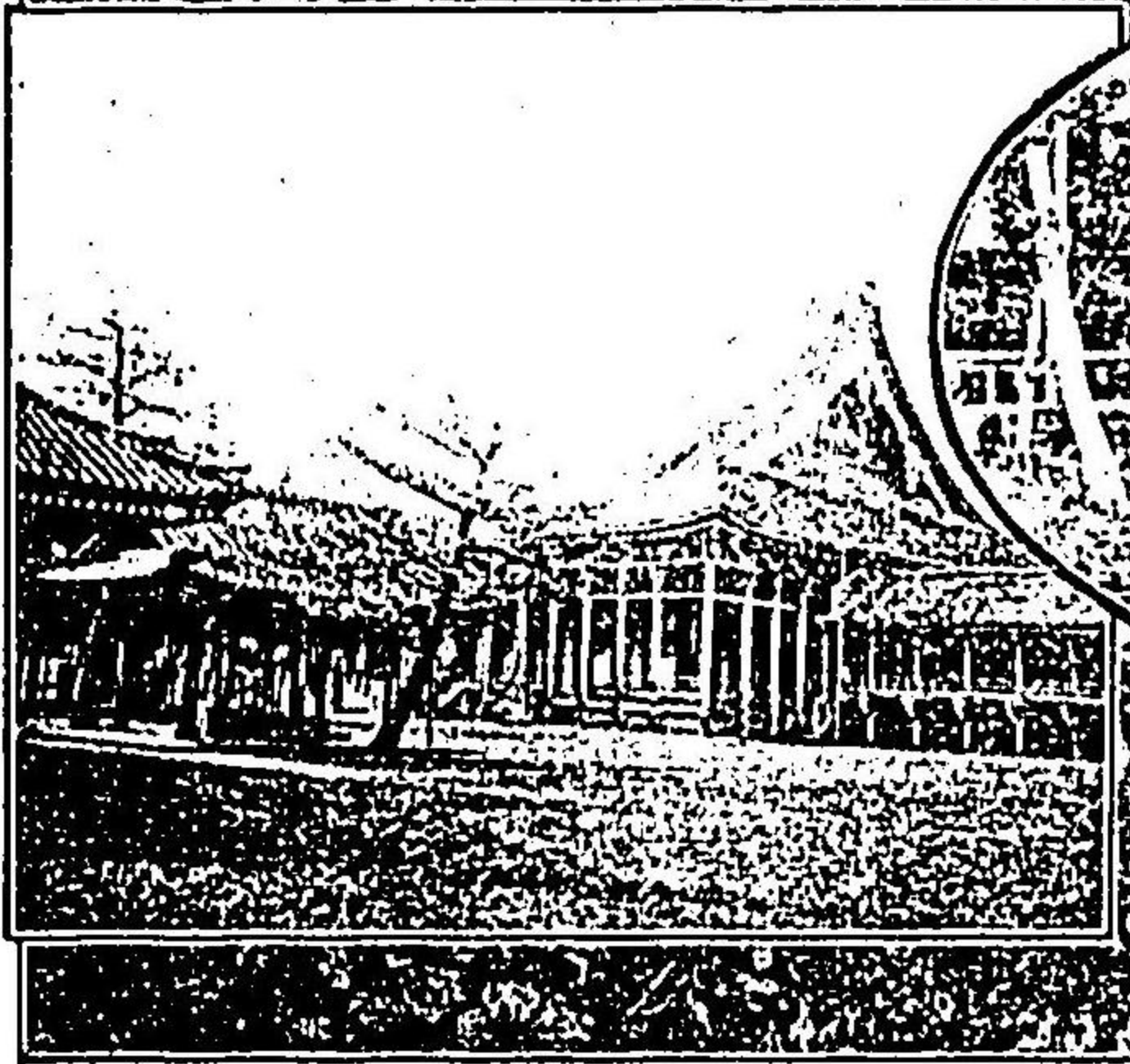
清水寺舞臺

東本願寺



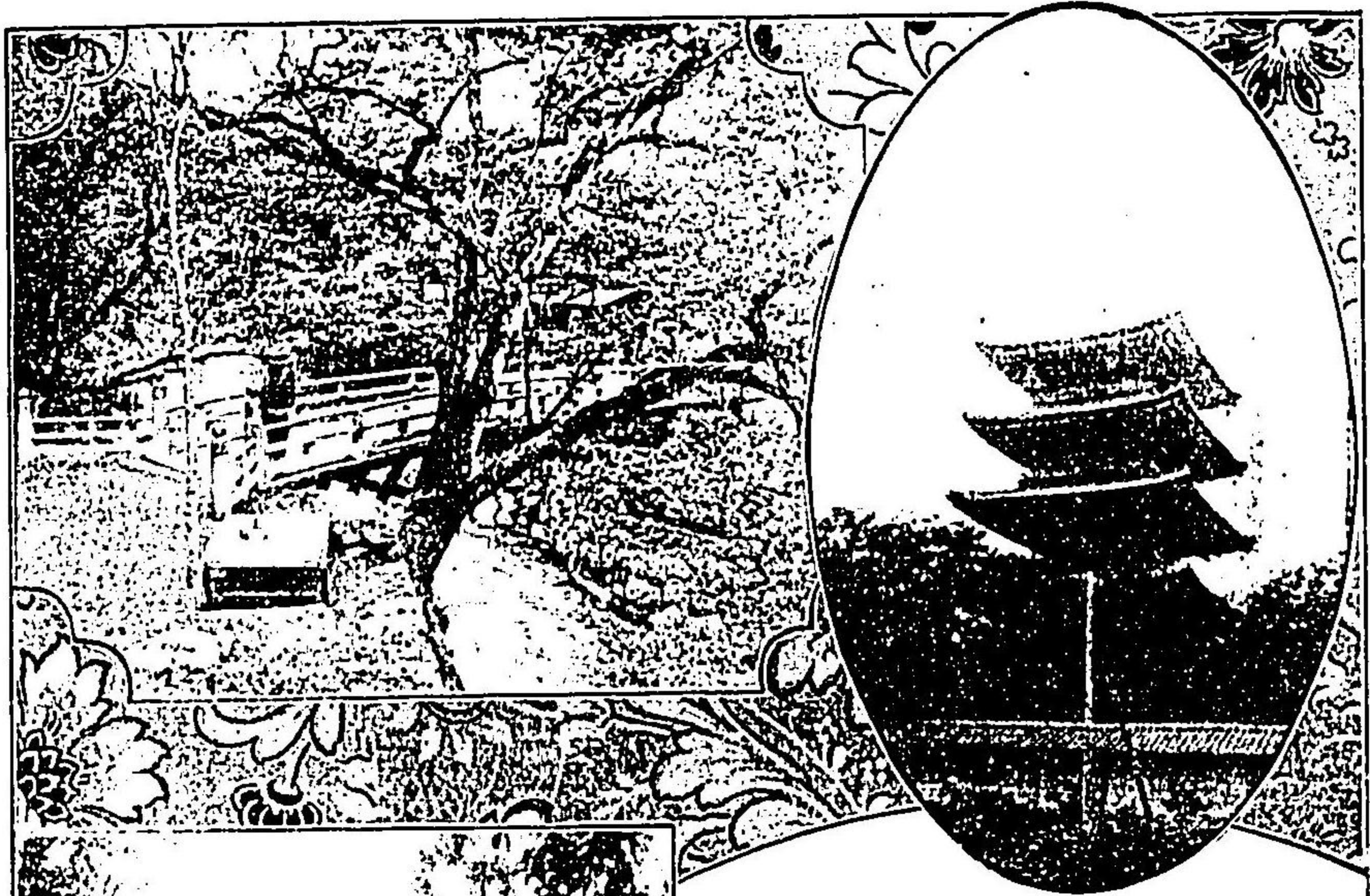
豊公廟

西本願寺

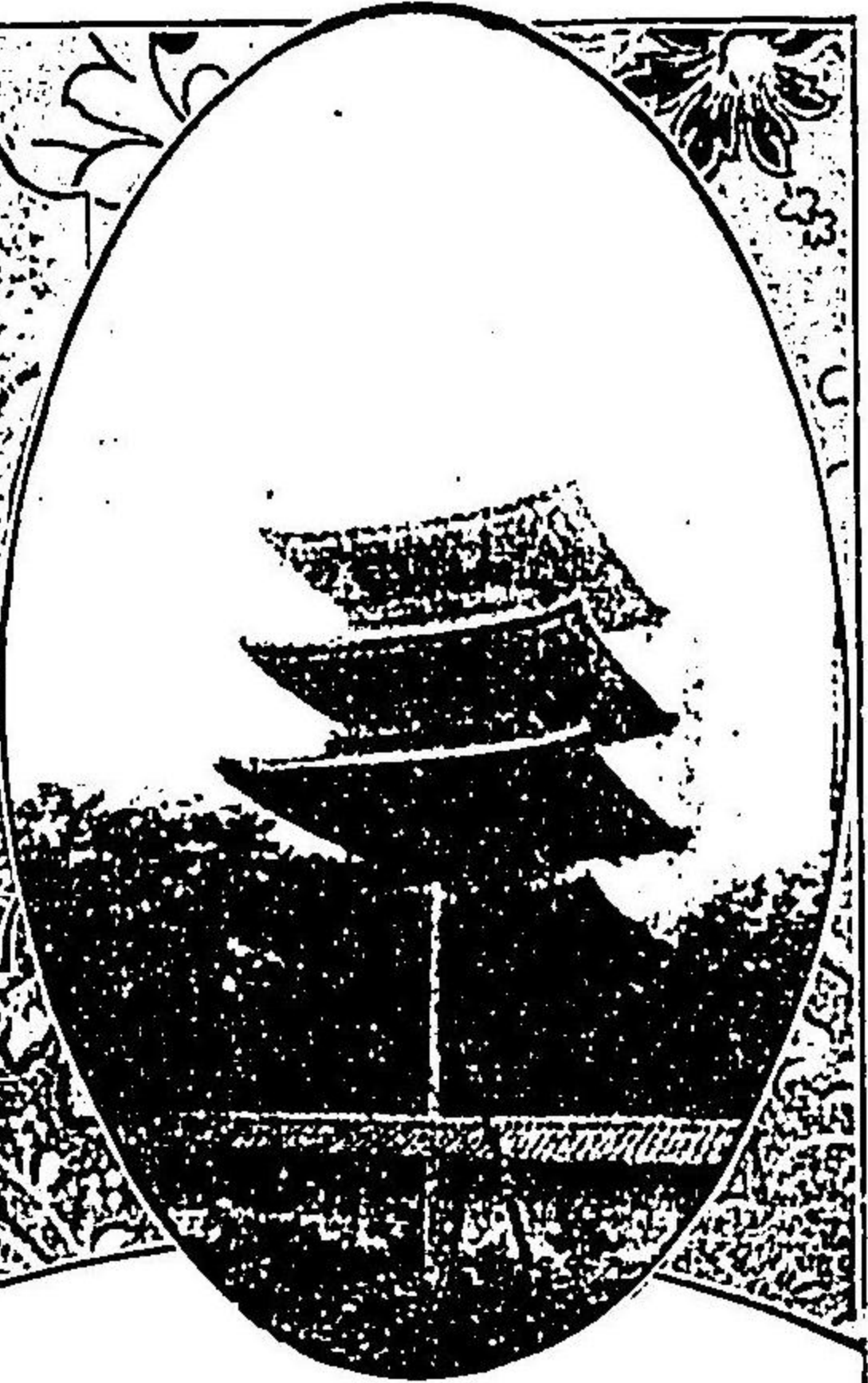


通天橋

高
雄



東
寺



北
野
神
社



三
條
御
宮

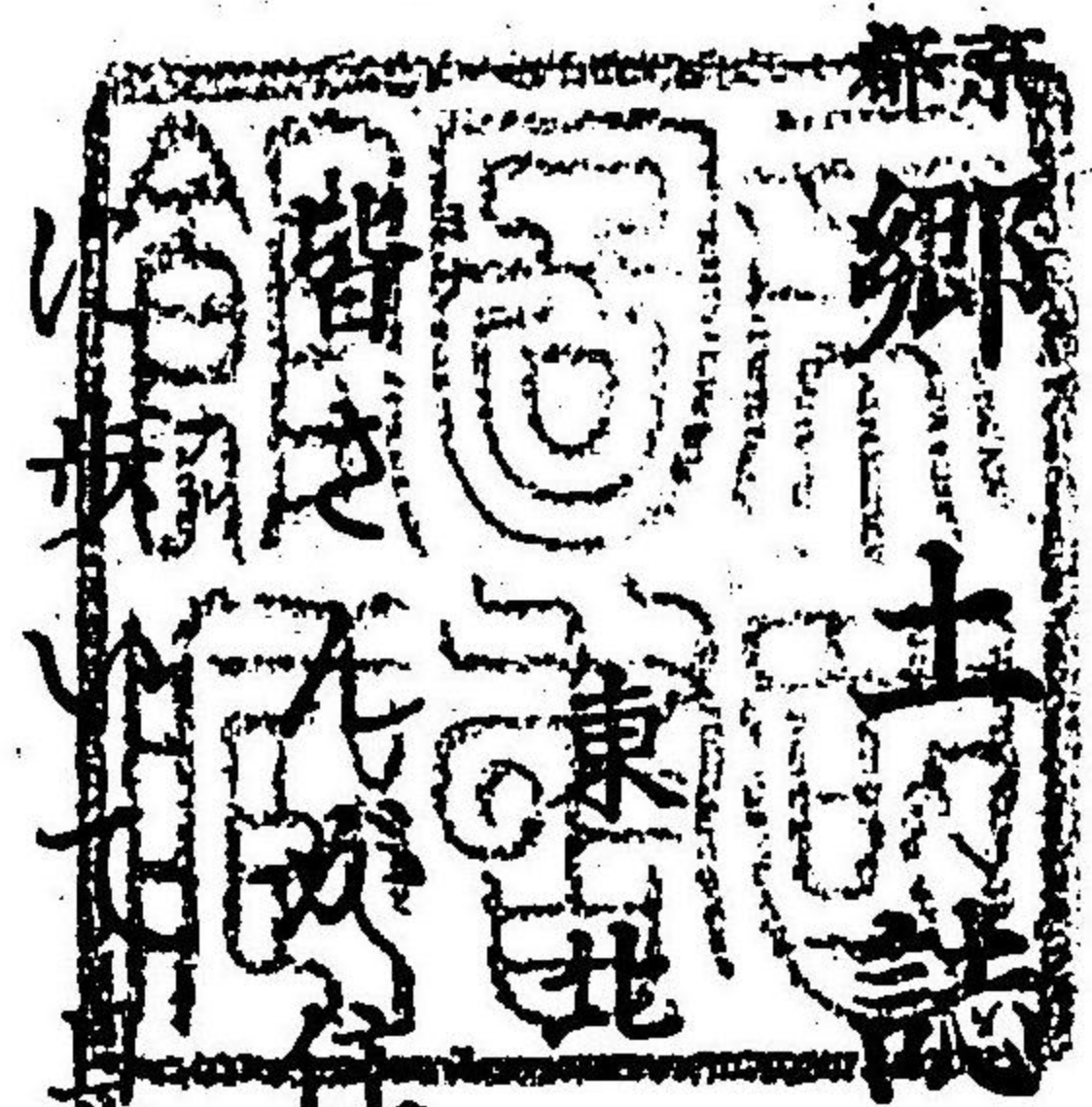


金
剛
寺



鳳
山





部

ことゝ致しませう。

皆之無残に居る京都市中を皆さんと共
 いっしょに見る積り御苑内から東北へ出掛る



御苑 東は寺町通で西は烏丸南は丸太町北は
 今出川までとす其中が内と外とに別れ居て内
 に清凉紫宸殿外に仙洞大宮御所昔は御所とい
 ひまして 天皇陛下の御住ひあらせられたる

處トコロです。

梨木神社 忠義な三條實美公、其父君を神と

て祀マツつた社ヤシロであります。

寺町廣小路の辻へ來る、東に見えるが

京都療病院 醫學校。

南を見ると

京都府高等女學校。

れ出でなさい、是コレから

同志社 相國寺 上御靈神社も見せませう

下加茂神社 毎年五月十五日葵祭は御勅使が、

京都御所から此宮へれ參りになる祭です。

葵橋をばうち渡り、彼の松原を行く時は、上加茂

神社へ參れます。

加茂川 鞍馬、貴船のあたりから、流れて來る其

水と、高野の川と集つて一つ流れとなつたです、

香魚も居ります、鱒も居る。

御覽なさい

比叡山 高さは二千八百尺、都の富士ぢやと唄

はれる。 修學院離宮は其村に、白河越は江州路。

吉田町には學校多い

京都帝國大學 大學醫院 高等工藝學校

第三高等學校 京都府第一中學校。

吉田山 神樂岡とは此處をいふ、吉田神社のあ

る處。

東に見える彼の山が

如意嶽 大文字山と俗にいふ、八月十六日の夕

方に、此山にとぼる火は何といふ字の形です。

皆さん此處等の道端に、石蒜やら毛茛、いやな毒

草咲くもある、よく氣を付てれ出なさい。

銀閣寺 鹿ヶ谷の北で浄土寺町にある庭が大

層うつく、こゝは足利義政がこゝらへまゝ

た寺である。

鹿ヶ谷へと来て見れば、瓢箪なりの大南瓜、餘所

の國には無い形状。

真如堂 寺内に楓葉が澤山ある、秋は格別景色

がよい。

陽成天皇御陵 真如堂の西にある。

御陵は崩御になつた 天皇陛下ををさめ奉つ

た處です、御陵の前にては敬禮をつくさねばな

りませぬ。

黒谷 真如堂の南で岡崎町にある、熊谷直實の
鎧掛松が堂の前に杖突て居る、熊谷直實の墓も、
平敦盛の墓もある、此人々は源平の戦で餘程名
高くある。

永觀堂 南禪寺町にあり、池がある、其周圍に楓
葉が多い、能く葉が照つた其時は、水に映つてか
らくれなる、何ともいへぬよい景色。

癡狂院 永觀堂の北にある。

南禪寺 有名なる寺、山門がある、龍がある、其側

に水路橋がある、インクラインも水利事務所も
墜道も見よ。

疏水運河 近江の湖水から水をひいた、明治十
八年八月から九年かゝつた工事である、此事に
力を盡されたは北垣國道男である、其銅像は疏
水の中嶋にある。

博覽會場 岡崎町にあり。

動物園 鳥獸を畜へる場所。

平安神宮 桓武天皇を祭神とす、桓武天皇は人
皇第五十代にて、初めて京都に都を奠め給ひし

天皇陛下なり。

其宮の前に紀念殿、應天門あり、紀念殿は奠都の紀念に建てられたり。

十月二十二日に時代祭と稱する祭あり、諸君は大抵見しことあらん。

武德殿 平安神宮の西にあり。

第一絹絲紡績株式會社 聖護院舟溜の北にあ

り。

川端に出づれば

稅務管理局を見る、遙に望めば織物會社、其前に

あるは荒神橋、御幸橋とも唱ふなり。

疏水の開門 水位平均する爲に作りし工事も見置くべし。

二條橋を渡り河原町を下に行く。

京都ホテルの旅館あり、市役所、議事堂

過ぎ行く時は

本能寺にも到るべし、寺町上に向ふれば

革堂 過ぎて 下御靈

美術工藝學校は美術に關する替古場所。

裁判所をば左にて、測候所をば右に見る。

晴雨寒暖よく知る、歸れは再び御苑内。

東南部

山は笑ひ水は温む、此春の時、諸子よ諸子、京都市中の東南を散歩して見ん、基點は三條大橋よ。

三條橋 三條通加茂川に架けた橋。

三條通を東に行くが大津街道である。

粟田青蓮院 青蓮院の宮ともいふ。此近邊に陶

器がある、粟田焼とて名が高い。

知恩院 東山中第一の大な寺、後の山が華頂山

四季の眺望最よく、山門と大鐘とは世間に聞ゆ。

八坂神社 素盞鳴尊を祀る、七月十七日と二十

四日とが京都を賑はす祇園會。

サ一來まゑた

圓山公園に 山手に見えるは也阿彌ホテル、鑛泉處も左阿彌

も見える、

枝垂櫻が立派な木と、幾万の人をば一本の花で

よく寄せた、真向ふ山が將軍塚、長樂寺の上の山陽先生の墓を松風が拂ふて居る。東大谷 其南にある、通り越えて行けば雙林寺である。

芝の上で休ませう、遊ぶにはよい場所、併せて花取つてはいけない、木折つてもいけない、總て公園は皆の人が遊ぶ場所。高臺寺 豊臣秀吉公の像と高臺夫人の像がある、秋には胡枝花の花盛り。此山の上に午砲が据付てある。

靈山 明治維新前後の殉難の士を葬る。

本戸公の墓は此處にある、招魂社も銅碑もある、其下に八坂の塔が見える。

産寧坂を登れば、土偶店が君等を迎へて竝んで居る。

清水寺 音羽山といふ、堂から遙に見渡せばパノラマを見る様に奇麗、黄色は菜種、緑は麥、塔は空高く伸る、瀧は地に落ちて響く、田村堂

は田村將軍を祀る。坂上田村麿は奥州征伐に出掛た強い將軍。

瀧のある處から向ふに行けば澁谷越、大津へ行く道だ。

鳥部野 澤山な墓がある、石田梅巖先生の墓へ參るもよい。

西大谷 五條通の東、石の眼鏡橋が眺んで居る、夏の頃には池に蓮が涼あう咲く。

西大谷の西が五條坂、此處に清水焼を製して居る。

阿彌陀峯 豊臣秀吉公の廟處。
日吉病院 傳染病患者の治療處。

泉涌寺 四條帝以後歷朝の御陵がある處。

一同最敬禮をせよ。

東福寺 境内が大層廣い、六万坪もある、通

天橋として有名な橋が秋には楓葉に赤く包まれて、細流れの上にある、儲もよい景色。

稻荷神社 官幣大社で、五穀の神様だとして澤山參る、稻荷祭といふは此社の祭である。

此前の通が伏見へ行く道で、奈良へも行くから奈良街道である。

深草兵營 第三十八聯隊。

藤森神社 兵營の南にある。

桃山 豊臣秀吉公が築かれた伏見城の墟である。

山城一面見渡せる、巨椽池も見える、宇

治川は其裾を流れて居る、西は伏見町で、遙

に南に茶で名高い宇治町がある。

桓武天皇御陵 此山の中にある。

汽笛の聲がする、汽車だ、

桃山驛から切符を買つて京都七條驛まで乗る

が便利、これが奈良鐵道線路。

京都停車場 塩小路にある、東海道の線路で

東は東京へ、西は大坂、神戸へ行く、

前に電氣鐵道がある、西に行くは堀川線、東

に行くは伏見線と北野線である。

伏見線は竹田街道を行く。

七條通を東へ七條橋を渡る。

三十三間堂 長さ六十六間の堂、堂の裏に射

場がある。

京都帝室博物館 三十三間堂の北にある。

豊國神社 豊公を祀る、耳塚は前に、大佛は

やといふ、聖徳太子が創められた寺。

聖徳太子は賢明な皇子である。

京都株式取引所 東洞院錦小路にある。

京都米穀取引所 其近所にある。

四條通 繁華な通で、此通筋と三條、五條が

京都の一番賑ふ町である、京人形と評判高い

は此四條通に多く賣る。

浄教寺 寺町四條にある寺、平重盛公の碑が

ある。平重盛公が君と父とに忠孝なる事柄は修身科

で申志ませう。

寺町通 京都市の堅町では一番賑やかである

五條橋 五條加茂川にある橋、此橋について

の面白い話を知つて居る。

御影堂 五條通寺町にある。堂の前に扇を賣

る、これが京都の名産。

下京區役所 間之町五條にある。

枳殻邸 大谷派本願寺の別邸、涉成園といふ

大谷派本願寺 俗に東本願寺といふ、徳川家

康公の命で出来た寺で、傍に噴水が高く昇つ

て居る、此水源は何れ？

西洞院 此流水の上に漆物屋が多い。

本派本願寺 俗に西本願寺といふ、寺内に大

きな公孫樹がある、其南に飛雲閣がある。

本願寺 西本願寺の北隣、日蓮宗の寺。

丹波街道 七條を西へ行くと丹波へ到ること

が出来る。

此街道の桂川橋の側に桂離宮がある。

東寺 僧空海が創めた寺、寺の内に五重の塔

がある、池に燕子花や蓮が咲く。

空海は弘法大師といふた博學の人で、片假名

は吉備大臣といつた人が作つたが、平假名は

此空海が作つたといふ。

此邊の田畑に芋、慈姑を多く作る。

京都府第二中學校 東寺の南にある。

大宮通を南へ行くと鳥羽街道で淀へ行ける

淀川 加茂川、宇治川、桂川、木津川を集め

て大坂へ流れ行く川。

男山 八幡宮のある山、男山神社は應神天皇、
神功皇后を祀る。

山崎 西國街道にあたる、山崎停車場のある
處。

天王山 山崎合戦で名高い。

京都鐵道 京都驛から丹波へ行く鐵道。

壬生寺 壬生念佛として狂言がある、諸子は見

たでせう、其見た狂言を話して下さい。

壬生菜 世に水菜といふ名物の菜は此壬生で

作る。

堀川 加茂川の支流が南下するのと、鷹峰か

らの小流れとが一條戻橋で合ふて来る、又疏

水の分流が北廻りして此川へ流る。

商業學校 商業家になる者が替古する學校で

又別に簡易商業學校といふものがある。

西北部

日を期して京都市西北部を散歩せんと欲し、
手帳を取り来る。

二條離宮 昔は二條城といひたりしも今は離

宮となる。

神泉苑 一千百餘年前、大内裏の禁苑にてありし地。

二條驛 京都鐵道の停車場にて本會社此處にあり。

監獄署 竹屋町千本にあり。

十一月八日 山脊を改めて山城となし平安城と名づけ給ふ（延暦十三年）

大極殿趾 大極殿のありし處にて、此千本通を南に行き、東寺の西三町餘の地に羅城門ありき、昔は千本通を以て左京、右京に別ちし。

妙心寺 花園法皇の離宮たりしを寺となし給ひたり、花園停車場近し。

汽笛の聲、

身は早くも嵯峨にありき。

嵐山 山は大堰川にのがむ、春は花の色を水

に浮べ、秋は楓葉の錦を流れに映す、渡月橋

戸難瀬瀧、身は一幅の活きたる畫の中を行

く。

此時手帳をぬらす時雨あり、秋の末より冬の初めに多きは時雨と霜となり。

桂川 大堰川の流れ下流に到りて桂川となる。

天龍寺 足利尊氏の創めし寺。

釋迦堂 清凉寺といふ。

一月五日 楠正行四條畷に戦死す(正平三年)

小楠公首塚 釋迦堂の西一町許を行けば藪あり

り其中にて首塚を拜す、其側に足利義詮の墓

あり、涙を墨池にとゞぎて小楠公の文を作る。

廣澤池 周圍十二町、月見の名所。

西に三千四十二尺の高き山を見る、是れ愛宕

山。

楓葉に有名なる高雄も此方角。

御室 仁和寺といふ、複瓣の櫻うつくし。

龍安寺 奥深き寺なり、細川勝元の住居をう

つゑたりといふ。

細川勝元は第三學年の時ならひし相國寺に陣

を取りたる人、我歸らば先生に委しく聞かん。

一月三十日 楠正成足利尊氏の兵を京都に破る(延元元年)

等持院 足利尊氏の墓あり。

二月二十五日 菅原道真遷す(延喜三年)

北野神社 菅原道真公を祭神とす、境内梅樹

多し、しばらく休みて、菅公の傳を讀む。

平野神社 社前に櫻多し。

金閣寺 足利義滿の別荘を寺となせしもの、

庭の景色甚よろし。

若狭街道は千本通を北へ行くべしと農夫に聞

きたり。

舟岡 建勲神社あり、此岡の上より京都全市

を一望せり。

織田信長公は足利氏の末に出で、國亂を治め君に忠を盡るを以て、明治二年建勲神社を

創立して公を祀る、別格官幣社なり。

大徳寺 舟岡の北、織田信長公に事へたる森

蘭丸の墓及び千利休の墓あり。

千利休は茶道の宗匠ゆゑ、其墓に耳をあてば

茶釜の湯の沸へる音ありといへり、他日理科

の空氣顫動の語に至りて其理を知らん。

今宮 大徳寺の北にあり。

上加茂も鞍馬山も行くべき道を手帳に認む。

此日雪ちらく降る。

瑞光院 赤穂義士を吊ひし寺。

京都府師範學校を望む。

西陣地方 京都の西北地方をいふ、西陣織と

稱ふる織物を出す、今に名産として其業盛也

川嶋工場 織物の工場。

一條戻橋 堀川の起る處。

二月二十八日 名和長年後醍醐天皇を船上山に奉す(元弘三年)

名和長年碑 大宮通一條にあり、名和長年公

戦死の地。

堀川通中立賣にて東を見れば、

上京區役所あり。

三月十二日 伊藤仁齊卒す(寶永二年)

伊藤邸 東堀川通出水下る處、仁齊先生の學

問を教へられし家なり。

京都府廳 下立賣新町にあり。

其前に漆織學校 盲啞院あり。

三月十二日 孝明天皇和氣清磨に正一位を贈り給ふ(嘉永四年)

護王神社 和氣清磨公を祀る、社頭高麗狗の

代りに石の猪あり。

皇統連綿たるを思ふ毎に清磨公の忠義を追想す。

商業會議所を見て二條離宮に到る時に午後五時なり。

京都郷土誌唱歌

花の都の名にねへる	平安城は山城の
國の中央に位して	面積二方里餘あり
戸數は七万一千に	人口三十有五萬
春夏秋はれだやかも	冬は少しく寒け也

人の心は風雅にて	行ひあらしき事もなく
言葉づかひも懇に	手工巧に世に秀で
土地製産の品々は	西陣織に繡纈纈
絲組物に袋物	友儔漆のうるはしさ
紅白粉に練油	針と簪御所文庫
扇團扇に京人形	毛植細工も世に高し
金屬細工箔の類	清水粟田七寶焼
時繪塗物菓子の外	千枚漬に驚くらす

都 京
鄉 土 誌
終

明治三十五年七月十日印刷
明治三十五年七月十五日發行

定價金拾錢

著者 京都市尋常高等小學校長會

京都市下京區三條寺町東入

發行者 福井源次郎



京都市上京區寺町姊小路上ル六番戶

發行者 杉本甚之介



京都市上京區東洞院三條上ル十番戶

發行者兼 村上勘兵衛



大阪市南區新瓦屋町二百二十六番屋敷

印刷者 啓文社

復製
不許

